

令和2年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	特別支援教育 部 会		
2 研究所員 ◆：代表者	◆田中宏太郎（西方中） ・鈴木 江里（栃木中央小） ・堤 美香（大平中央小）	・関谷 愉子（家中小） ・前原悠一郎（栃木西中）	事務所員 ・庄司 和美 ・飯田 浩子



3 研究テーマ

主体的に学ぶことができる環境づくり

4 研究の取組

(1) 研究内容

通常学級の中でできる支援の構築

- ・教室環境
- ・全体への支援
- ・個別での支援

特定の生徒への支援及び、変化の見取り

生徒の困り感の見取りや、変化の見取り方の協議

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
8月12日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月9日	研究報告のまとめ
10月2日	対象生徒についての実践報告	2月19日	2年次経過報告提出
12月1日	これまでの取組確認		

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・それぞれの学校の実践報告を受けて、通常学級でできる支援について理解を深めることができた。
- ・大きく分けて教室環境の整備、子供同士のやりとりの強化、個別指導の3つのアプローチができることが分かった。
- ・小学校では成功体験を積みませ、学習意欲を高めること、中学校では自分なりの問題解決策を確立させ、自信をつけて自立を促すことが有効だと分かった。
- ・「主体的な姿」として、「できなかった学習に取り組むようになった」「必要性と感じて取り組むようになった」「同級生の手助けに感謝できた」など見とれた。

【課題】

- ・「主体的に学ぶ」という姿をどう捉えるかが難しい。1人1人の目指す姿が違うため、特性に合ったものを見極めることが大切。どのようなときに何が有効だったかをすくすくシートなどに記入し、引き継いでいくことが大切。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- ・今年度は研究授業や授業見学ができなかったため、授業を参観しながら、環境作りがどのように児童・生徒に影響を与えるのかを研究していきたい。